

# 令和6年能登半島地震 ～災害派遣報告～

報告者：産業振興課 林業室 主査 榛葉 大樹

# 派遣概要

---

派遣期間：令和6年1月25日(木)～2月1日(木) 【第2陣】

派遣場所：石川県鳳珠郡穴水町  
ほうすぐん あなみずまち

業務内容：避難所運営業務

活動場所：町内32か所の避難所のうち3か所

⇒穴水町役場・こうよう向洋小学校・のとふれあい文化センター

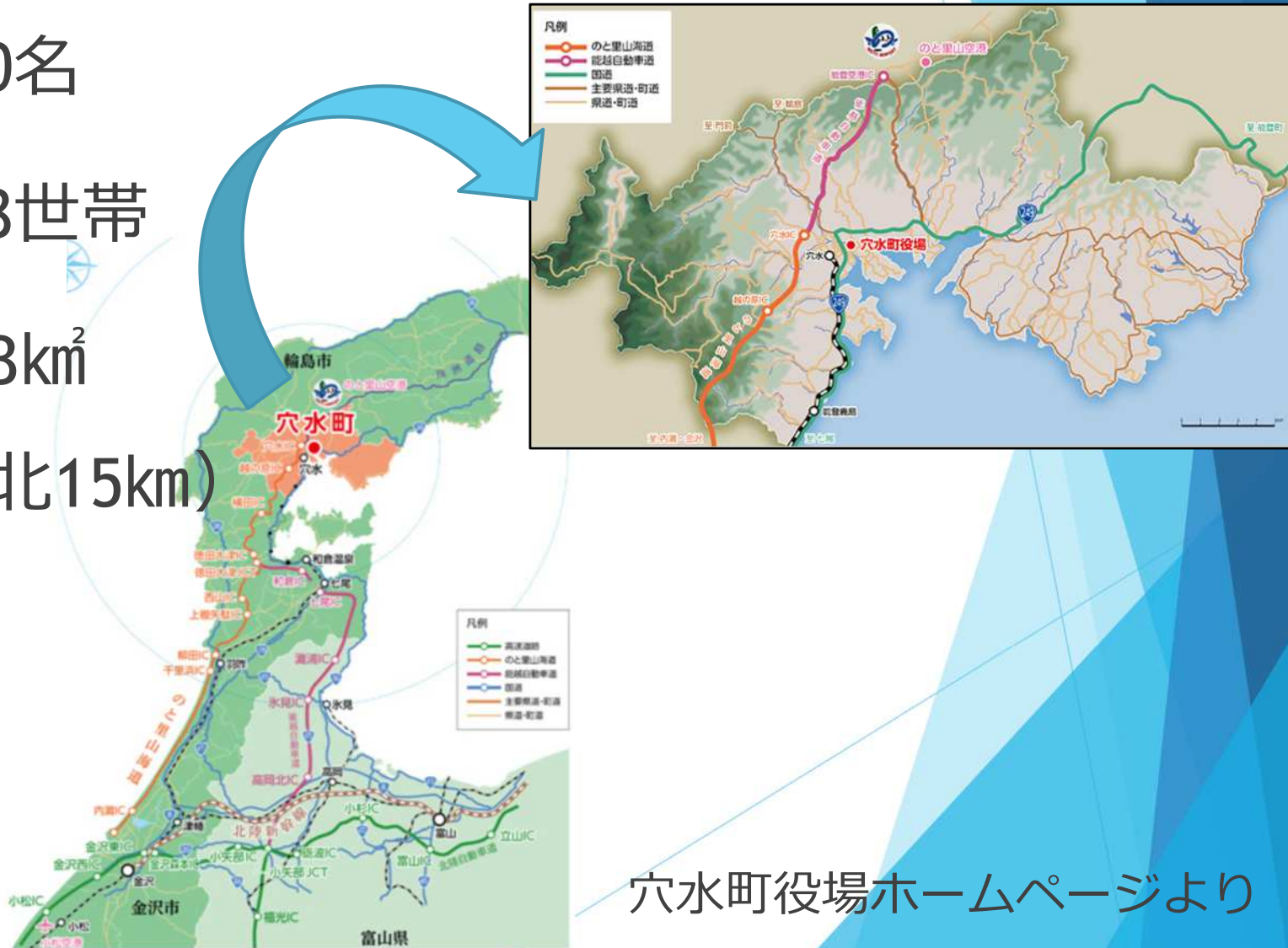
# 穴水町の概要

人口・・・7,890名

世帯数・・・3,288世帯

面積・・・約183km<sup>2</sup>

(東西約30km、南北15km)



穴水町役場ホームページより

# 穴水町の被害状況（R6.1.28時点）

---

死亡者・・・20名

行方不明者・・・0名

避難所・・・32か所

避難者・・・1,090名（穴水町役場避難所は43名）

孤立者・・・0名

応急危険度判定・・・6,358件実施（1/18に全件終了）

⇒うち「危険」2,310件、「要注意」1,855件

被害認定調査・・・2,310件調査済（進捗割合：34.4%）

# 穴水町の被害状況（R6.1.28時点）

---

水道・・・断水（ほぼ全域）

電気・・・ほぼ全域で復旧済み

道路・・・通行止め 11路線、片側通行 18路線

⇒主要道路は仮復旧済み

⇒町外や金沢市内の移動は可能

電車・・・一部区間運休

⇒運休区間は代行バスにて輸送開始（1/29から）

# 穴水町の被害状況

---

穴水町内は木造家屋の倒壊や道路の損傷が目立ち、発災から3週間程たった現在でも、復旧は進んでいない様子であった。

また、一見損傷の無いように見える非木造の住宅も、基礎や外壁に大きな亀裂が入ったり、家屋の内部も大きく損傷していることもあり、自宅での生活が困難な状況となっている方が多くいた。

特に、上下水道は大きなダメージを受けており、町民の生活に大きな影響を与えていた。

災害派遣時は道路や上下水道の復旧工事が進められていたが、復旧は2月末から3月までかかる見込みとなっており、今回の地震の規模の大きさを感じた。

# 穴水町の被害状況



穴水町役場の様子

# 穴水町の被害状況



穴水町役場の様子



# 穴水町の被害状況



穴水町内の様子

# 業務内容 ～避難所運営業務～

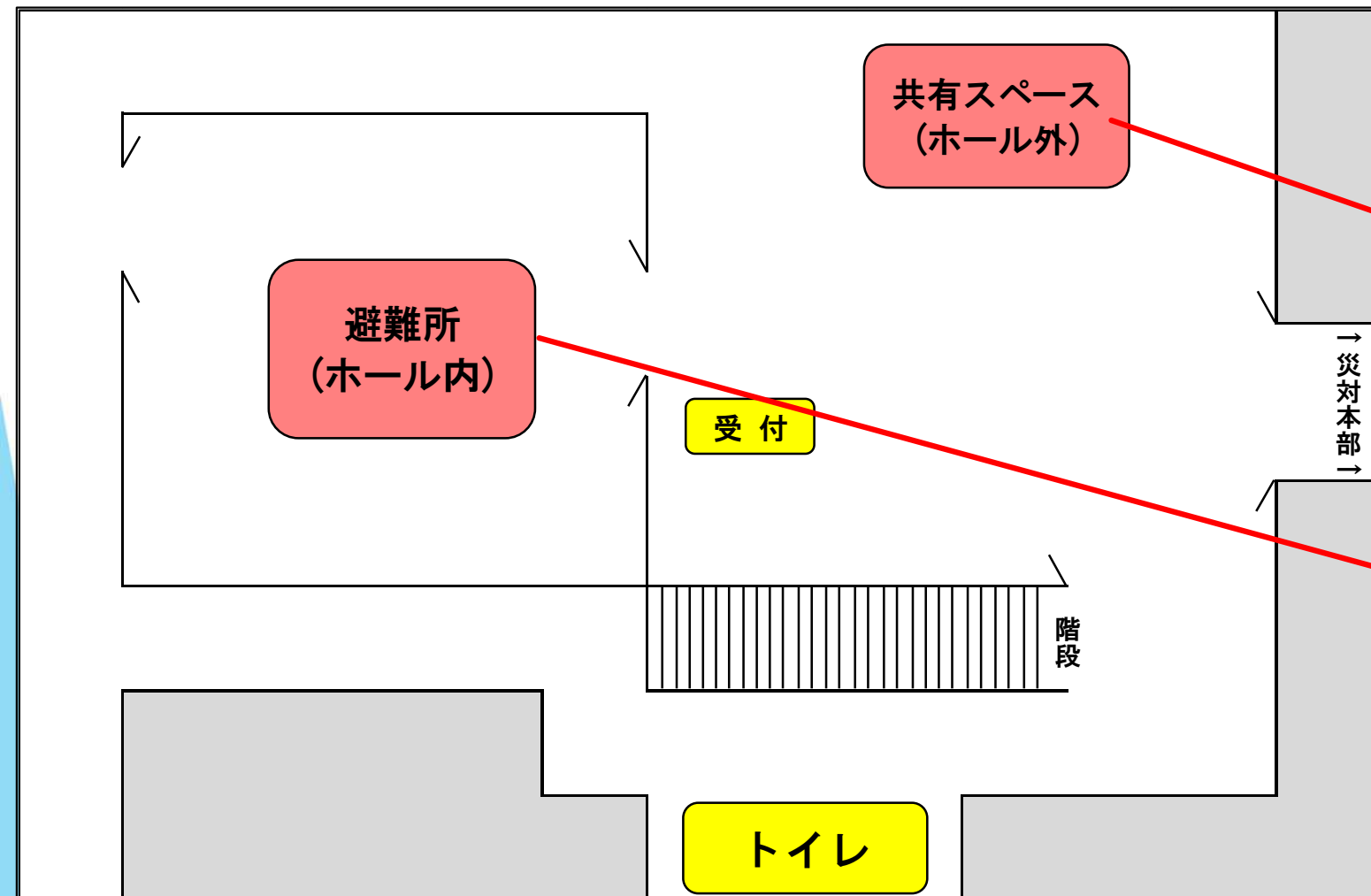
---

- 避難者の入出管理
- 支援物資の発注・受け入れ・管理（在庫管理）など
- 避難者の生活のサポート
  - ⇒基本的には避難者が自主的にお掃除などしていた。
- 避難所内や周辺の見回り・防犯

など



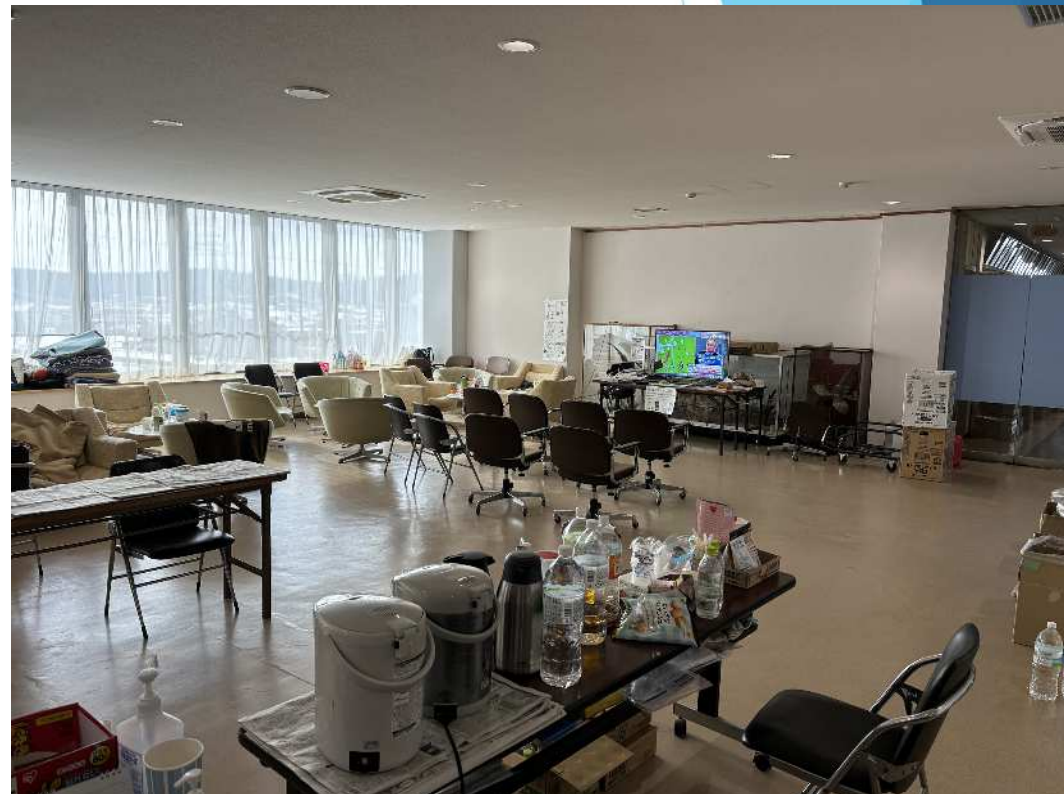
# 避難所の様子 ～避難所レイアウト～



# 避難所の様子



避難所の様子



共有スペースの様子

# 避難所の様子



支援物資の状況

# 業務内容 ～避難者の入出管理～

- 避難所に避難されてきた方、自宅へ戻る方などの記録や管理  
⇒発災から3週間程経過していたため、避難所の入出は比較的落ち着いていた。
- 避難者名簿やレイアウト図の作成  
⇒緊急時に誰がどこにいるのか、すぐに確認できるように作成した。
- 避難者以外（部外者・不審者）への対応  
⇒避難所では多くの人出入りがあるため、プライベートな空間への侵入や犯罪などが発生しやすいため、避難者が安心して生活できるように、訪問者に対して名簿を記入させるなどの対応を行った。
- 各種関係機関との調整  
⇒穴水町役場や自衛隊、DMAT（災害派遣医療チーム）など

# 業務内容 ～支援物資の管理～

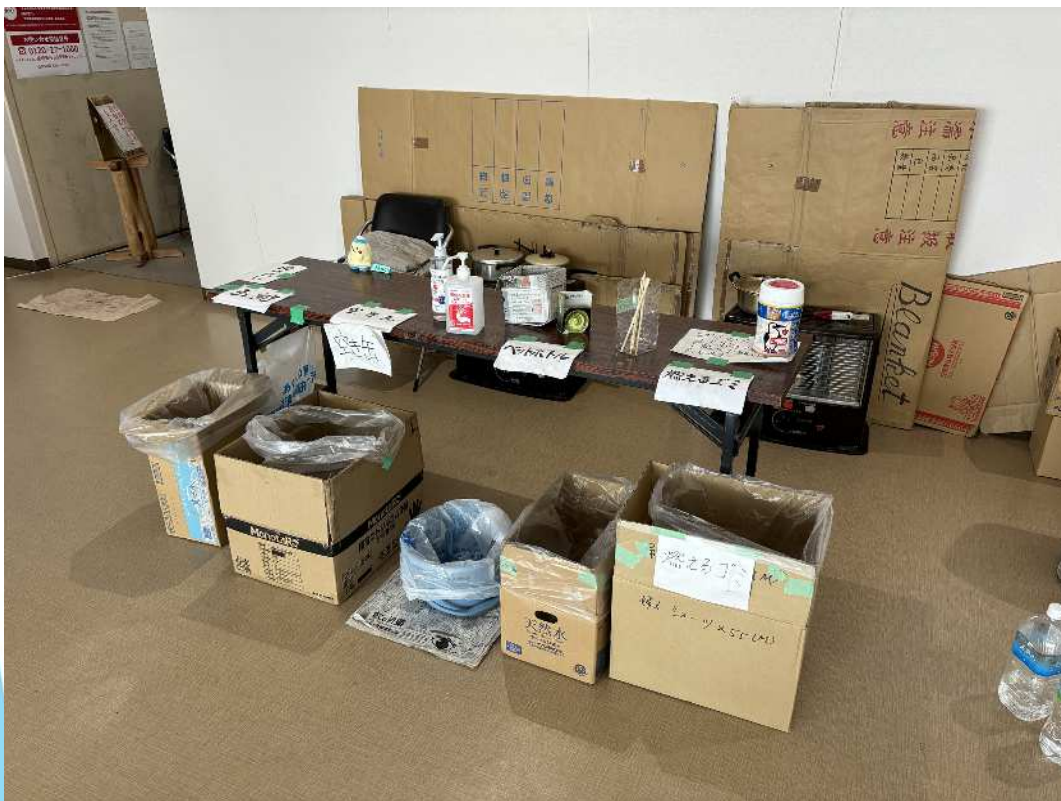
- 支援物資の受け入れ  
⇒毎日、自衛隊や佐川急便から届けられる支援物資の受け入れを行った。
- 支援物資の在庫管理  
⇒物資の数量を把握し、必要なものの発注を行った。  
食料や飲料水は十分にあったが、衛生用品などが不足していた。  
⇒避難所の代表者と、こまめに必要なものの確認を行った。
- 支援物資の整理  
⇒毎日、たくさんの物資が届けられるため、物資が散乱しやすい。  
必要なものをすぐに提供できるように、種類ごと整理した。
- 避難所同士での物資の受け渡し  
⇒避難所によって物資の状況はバラバラのため、物資が不足している避難所へ余っている物資を渡した。



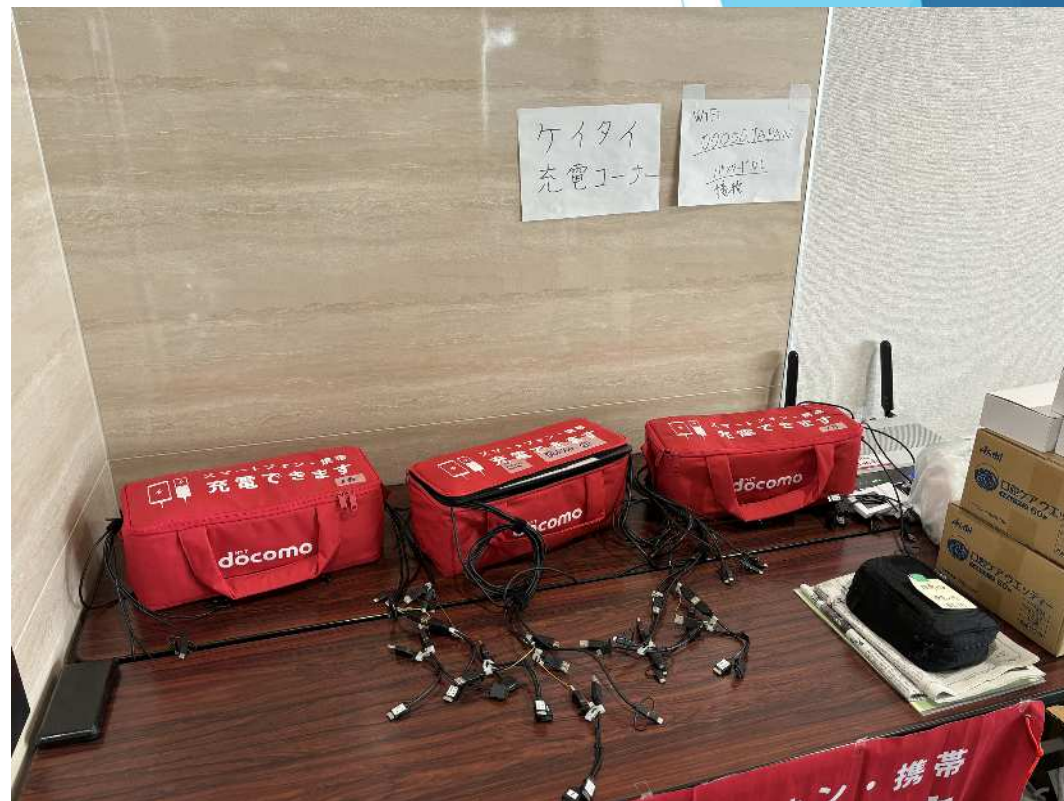
# 業務内容 ～避難者の生活のサポート～

- 避難所内の掃除、ゴミ出し  
⇒非常食の容器やペットボトルなどのゴミが大量に出るため、1日に4～5回ほどゴミ出しを行った。
- 共有で使う物の整理・整頓
- 起床・就寝時間の管理  
⇒起床6：00、就寝21：00
- 照明や空調の管理  
⇒特に空調や換気は感染症の心配もあるため、注意して行った。
- 避難者の体調確認・見回り
- 食事や炊き出しの配膳、配布
- 避難者とのコミュニケーション

# 避難所の様子



避難所ごみ捨て場



携帯電話充電スペース

# 避難所の様子



役場仮設トイレ



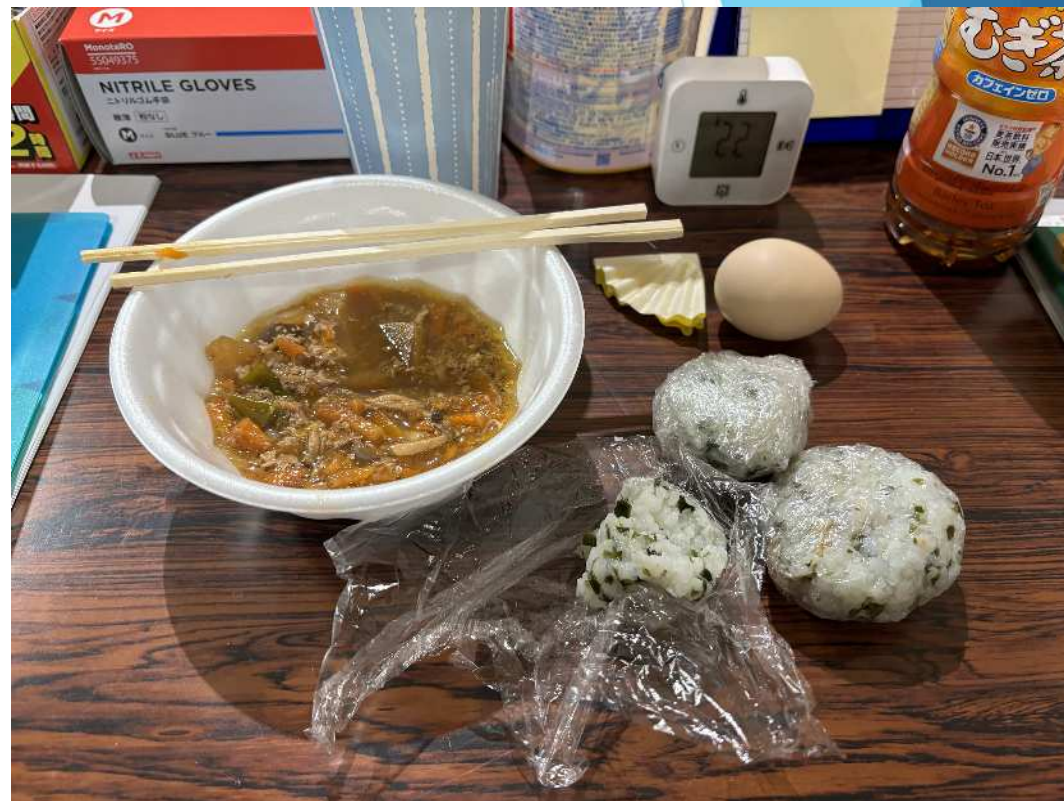
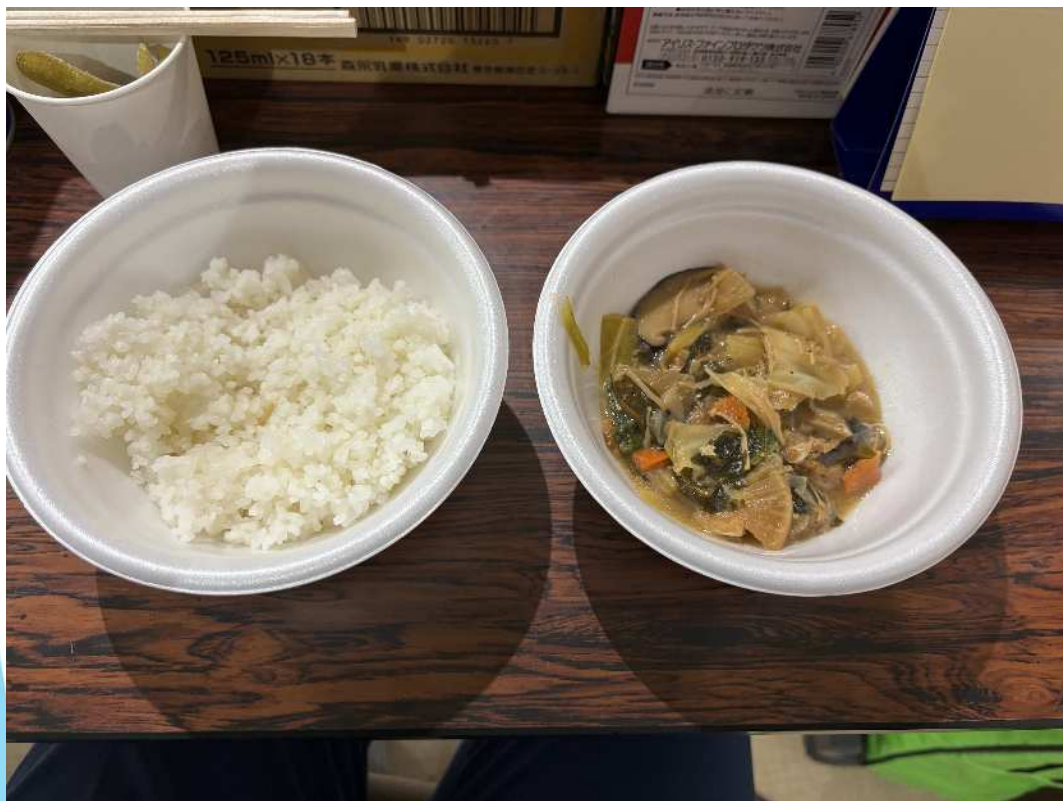
役場内トイレの物資

# 避難所の様子



ごみ捨て場

# 避難所の様子

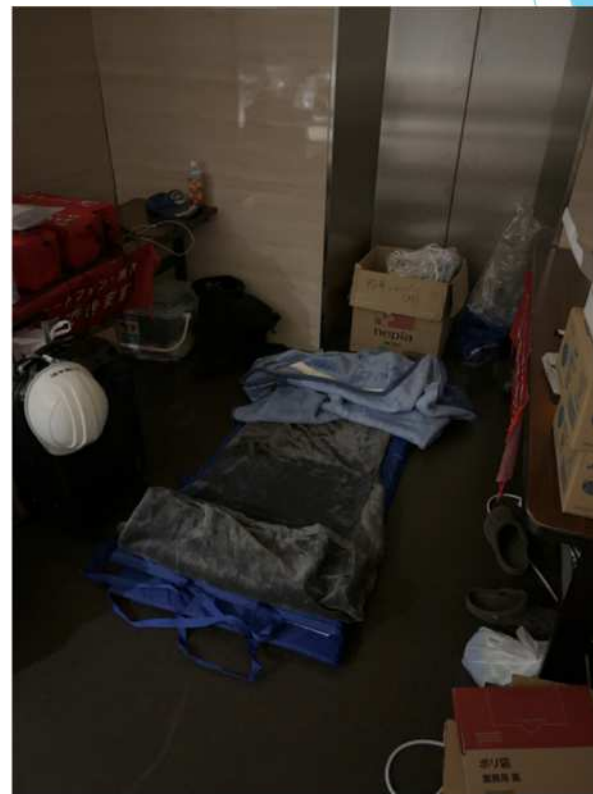


炊き出しの食事

# 避難所の様子



支援物資の食事



仮眠スペース

# その他



のと里山空港（待機場所）

# 避難所業務で感じたこと《事務》

- 業務日誌や避難者名簿、訪問者の記録など、統一した様式が無く、すべて手作りのものであったため、対応に苦慮した。
  - ⇒ 対応者によって書き方がバラバラなため、引継ぎ事項の伝達誤りや認識誤りの原因となった。
  - ⇒ 過去に行った対応方法や必要な連絡先などすぐに確認できない。
- 日々大量の支援物資が届くため、在庫管理が非常に困難であった。
  - ⇒ 物資の中にも詳細に分類する必要があるのかわからないのか判断しなければならない。
- 避難所によって対応が異なっており、不満やクレームの原因となってしまう可能性がある。
  - ⇒ 「臨機応変」は大事だが、基本的な部分の統一は必要だと感じた。



# 避難所業務で感じたこと《事務》

- 緊急時の連絡・対応手段の明確化  
⇒体調不良や急病時など迅速に対応できるように準備したい。
- 防犯面での警察との協力体制を整えておく必要があると感じた。  
⇒避難所では不特定多数の人の出入りが激しく、部外者による犯罪が発生しやすい。（避難者同士のトラブルや犯罪も事例としてある。）  
⇒避難所では基本災害派遣の職員のみでの対応であったので、地元の方の顔が分からない不安があった。

# 避難所業務で感じたこと《その他》

- 避難所での衛生面の対策は常に考えておく必要がある。  
⇒特に今回は上下水道が使用できなかったため、コロナウィルスやインフルエンザ、ノロウィルスなどの感染症が発生しやすい状況となっていた。
- 避難生活をしている子供とその周りの人の対応についても考えておく必要がある。  
⇒今回、私が業務を行った避難所では、2歳児と5ヶ月の乳児がおり、周囲の人の理解や協力が必要であると感じた。
- 避難所では高齢者が多く、またけが人もおり、移動等のサポートが必要となった。

# まとめ

---

今回の能登半島地震における被災地支援を通じて、貴重な経験をさせていただきました。

発災から1ヶ月経過しますが、家屋やライフラインなど生活に必要なすべてにおいて、復旧が進んでいないように感じました。

日々報道されているニュース等で甚大な被害を受けていることは、認識していましたが、実際に自分の目で見て、経験してきたことによって、今までの考え方や準備がどれだけ甘かったのか痛感しました。

静岡県も近い将来、南海トラフ巨大地震が来ると予想されています。

もし、この地震が発生したら、本町でも想像もつかないような被害が発生することでしょう。

おそらく、想定外の被害に今まで準備・訓練してきたことが発揮できないと思います。

# まとめ

---

実際に、発災当時の様子を穴水町の職員の方に聞きましたが、予期しない出来事で混乱していて、訓練していたことが発揮できなかったと言っていました。

いつか来るかわからない災害に備えて、繰り返し訓練し、頭ではなく体に覚え込ませることが、いざという時に力を発揮できるのではないかと思います。

また、今回避難所運営業務に従事させていただいた中で、避難者同士で協力することの重要性も感じました。

短い期間ではありましたが、避難所の職員だけで回せることはわずかであることに気づきました。

災害を乗り越えるためには、職員と住民が協力し合っていく必要があります。

# まとめ

---

最後に、今回の被災地支援を通して感じたことは、職員一人ひとりが災害について、些細な事でもいいので考えを持つことが大事なのではないかと思いました。

いつか来る災害に備えて、私たちに何ができるのか、何をしなければいけないのか、改めて考える必要があります。

実際に現地に行かなくても、被災地のことを知ることも、小さな一歩だと思います。

私としても、今回の経験を次に生かせるよう頑張っていきます。

以上